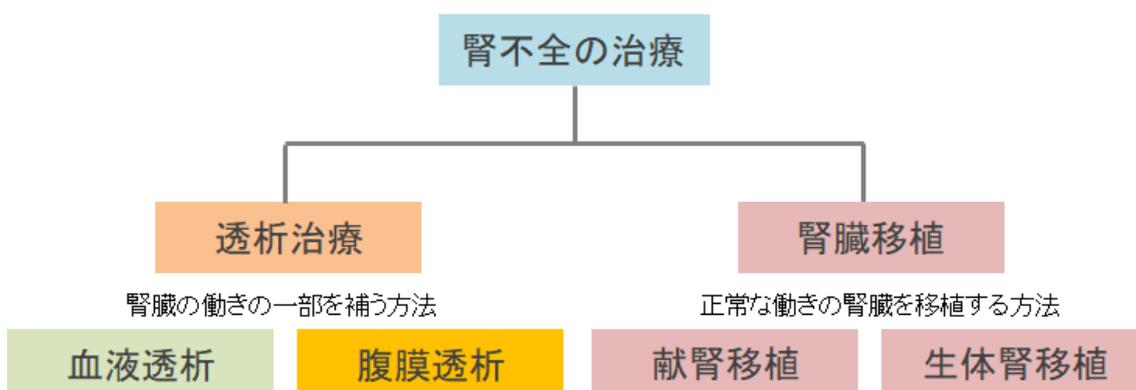


## 腹膜透析（PD）

腎不全治療には大きく分けて『透析治療』と『腎移植』があります。

病状や体調、残っている腎臓の機能を守るなど医学的な判断に加えて、生活スタイル（生活習慣、仕事、趣味）などや年齢、生活環境なども含めてどの方法が良いのか当院でも相談させていただきます。



※腹膜透析とは、患者さん自身のお腹の中に、手術で植え込みされたカテーテルで透析液を注入し、お腹の中にある『腹膜』を利用して除水や尿毒素の除去、電解質補正を行います。

※血液透析と腹膜透析はどちらを選んでも途中で変更することは可能です。

## 血液透析(HD)と腹膜透析(PD)の比較

	血液透析	腹膜透析
治療場所	病院・クリニック	自宅・仕事先・学校
透析準備～終了まで	医療従事者	ご自身・家族
通院回数	週に3回	月に2回
治療時間	3～5時間	APD: 就寝中に8～10時間 CAPD: 30分×1日3～4回
治療開始前手術	シャント作成手術	お腹にカテーテルを植え込む手術
生じかねない症状	疲労感・血圧変動	腹部膨満感
体調の変動	透析前後でややあり	ほぼ一定
治療可能な期間	制限なし	5～8年
残存腎機能の維持期間	尿量が減りやすい	尿量を保ちやすい

※自宅で血液透析を行うHHD（在宅血液透析）も可能です。詳しくは人工透析ページ内の『HHD（在宅血液透析）』項目をご覧ください（PDF資料）。

※腹膜透析（PD）には夜間就寝中に自動で透析を行える自動腹膜透析（APD）と1回30分程の液交換を1日に3～4回行う連続携行式腹膜透析（CAPD）があります。

**PD-HDハイブリッド治療（通常腹膜透析を行っておき、週に1回血液透析を併用する治療です）**

腹膜透析と血液透析を行う治療PD-HDハイブリッド治療にはどのようなメリットがあるのか。

腹膜透析は患者さん自身のお腹の中にある『腹膜』を利用して除水や尿毒素の除去、電解質補正を行います。ただし残存腎機能の低下と腹膜は経年的に劣化してしまうことでやがて十分な除水や尿毒素の除去が行えなくなってきます。

そこでPD-HDハイブリッド治療をすることで得られる効果もあります。

## PDとHDハイブリッド療法のメリットとデメリット

### メリット

- ・血液透析を週に1回追加することでより尿毒素の除去がされ、より除水が行われることにより体重管理もしやすくなる
- ・貧血の改善
- ・食事制限が緩和される
- ・患者さんQOL(生活の質)が向上
- ・腹膜への負担が軽減され腹膜透析可能な期間が長くなる

### デメリット

- ・PDのみに比し残存腎機能が低下しやすく尿量が減りやすい
- ・血液透析を行うために内シャントの手術を行う
- ・血液透析のために来院する必要がある

すなわち腹膜透析だけでは毒素（溶質）や除水が十分に除去できない場合は、週1回、血液透析を併用するハイブリッド療法が保険で認められています。他院で腹膜透析を管理していただいている方は、診ていただいている先生と当院で打ち合わせが必要です。移行をご希望の際には、まず、主治医の先生にご相談ください。また当院においても腹膜透析実施・管理を行えますのでお気軽にご相談ください。